

# 5. 緩和ケア運営スタッフ人材育成セミナー

阿部 まゆみ

(名古屋大学大学院 医学系研究科 看護学専攻)

## 緩和ケア運営スタッフ人材育成セミナーの概要と開催状況

2008年、キャンパス型緩和ケア・サロンを開設した当初から、「緩和ケア」を運営できる人材の養成も課題として位置づけ、2010年

より2日間の本セミナーを開始した。目的は、がんサバイバーを支援する緩和ケアについて、概念と方法論を中心に実践例を通して研修し、施設や地域において緩和ケアの推進を担う人材を育成することである。概要は表1に示した通りで、セミナーの内容は、緩和ケア・コンセプト

表1 緩和ケア運営スタッフ人材育成セミナーの概要と開催状況

目的	がんサバイバーを支援する緩和ケアについて、概念と方法論を中心に実践例を通して研修し、施設や地域において緩和ケアの推進を担う人材を育成する。	
対象	緩和ケアに関心をもつ医療職・市民ボランティア	
会場	名古屋大学医学部保健学科(本館多目的室・がん緩和ケア研究室・東館大講義室)	
セミナーの内容	〈講義〉 ・緩和ケア・コンセプトの概論 ・イギリスの緩和ケア研修の報告 ・「広がる緩和ケアサロンの実践報告(緩和ケア病棟、がん診療連携拠点病院、コミュニティ、キャンパス)」	
	〈演習〉 〈見学〉 ・親子の絆を高めるコミュニケーション ・サロン模擬体験	・緩和ケア、新たなアプローチ ・緩和ケアの国際的な動向と日本の実情 ・緩和ケアに関する調査研究報告 ・緩和ケアの支援ニーズ
	〈グループ討議〉 ・緩和ケア病棟併設型サロン ・がん診療連携拠点病院型サロン ・クリニック型サロン ・コミュニティ型サロン ・キャンパス型サロン	



図1 ゴールドフィッシュボウル教育セッション(サロン見学)



図2 人材育成のグループワーク発表

トの概論に関する講義に始まり、コミュニケーション演習やサロン見学（図1）、サロン設立や運営ノウハウに関するグループ討議と発表などで構成した（図2）。

サロン実践例の紹介については、本学のがん看護専門看護師教育プログラムで学び資格を取得した修了生が、自分の就業先でサロンを開設し活動を開始した報告も含まれ、人材養成とサロンの開花が相乗的に促進されていった証である。

年2回開催して6年目を迎え、11回開催し参加者延べ数は591名である（表2）。南は沖縄県から北海道まで35都道府県から参加者（表3）があり、東海が75%を占めた。セミナー開催について、がん診療連携拠点病院をはじめ広く通知し、がん相談支援や緩和ケアに携わる看護師、医療ソーシャルワーカー、薬剤師、医師、緩和ケアに関心の高い作業療法士や理学療法士、臨床心理士、サロンに関わるボランティア市民、そして、看護大学の教員や院生・学部生などが参加している。受講動機は、緩和デイケアへの関心、在宅医療におけるサバイバー支援体制強化、地域におけるがん患者サロン運営強化やサロン立上げなどで、モチベーションの高さがうかがえた。

### セミナーの経験交流から描かれる緩和デイケア・サロンの姿

セミナー開催により、病院だけでなくコミュニティやキャンパスにおける緩和デイケア・サロンのユニークな実践について広く周知されるようになり、さらにセミナー参加者による新たなサロン開設へと広がっている。緩和デイケア・サロンのタイプは、緩和ケア病棟併設型、がん診療連携拠点病院内型、在宅緩和クリニック併設型、コミュニティ拠点型、キャンパス型などのタイプで広がりがつつある。これらは、患者のパフォーマンス・ステータス（PSレベル）に合わせて選択されるという側面や、地域の特性も関連している。

セミナー参加者のアンケートから「患者サロン立上げの参考になった」「在宅で療養するがん患者をサポートする一環として緩和デイケアがあることの意義が分かった」などの回答を得、サロ

表2 開催年月日と参加者延べ数

年度	開催日	参加人数	開催日	参加人数
2010	10/16	62	3/5	51
2011	7/16	65	10/22	51
2012	7/21	69	10/6	45
2013	7/14	55	10/13	42
2014	7/13	52	10/26	55
2015	7/26	44	合計:591(人)	

表3 延べ参加者の背景 n=591

項目	内訳	人 (%)
性別	男性	53 (8.9)
	女性	538 (91.0)
地域	北海道・東北	5 (0.8)
	関東・甲信越	50 (8.4)
	東海	444 (75.1)
	近畿	56 (9.5)
	中国・四国	18 (3.0)
	九州・沖縄	18 (3.0)
職種	看護師	384 (65.0)
	保健師	3
	訪問看護師	12
	セラピスト	16 (2.7)
	MSW	15 (2.5)
	サロン運営補佐	14 (2.4)
	薬剤師	13 (2.2)
	医師	12 (2.0)
	理学・作業療法士	11 (1.9)
	臨床心理士	5 (0.8)
	社会福祉士	5 (0.8)
	医療法人経営者	3 (0.5)
	ボランティア・他	8 (1.4)
	看護教員	64 (10.8)
	院生・学部生	41 (6.9)
	看護専門職	緩和ケアCN
がん看護CNS		10
がん性疼痛看護CN		8
がん専門相談員		2
乳がん看護CN		1

CN：認定看護師 CNS：専門看護師

ン模擬体験では、サロン利用者との交流を通して「退院後に生じるさまざまな問題に対する解決策のヒントになる場」「がんサバイバーと家族への支え合いの場」「患者同士が構えずに語れる場」などと捉えることができ、生活の延長線上に患者サロンが必要とされることの理解につながった。今後の活動について8割の参加者から「新しい支援の在り方として緩和ケア・サロンのイメージができ、今後の活動に役立つ内容であった」「今回の学びを通して自施設でがんに関わるミニ講座や患者同士が語れる場を提供するなど、具体的な活動につなげたい」などの意見が寄せられた。

---

## 緩和ケア・サロンがもたらすものを継続し発展させるために

緩和ケア・サロンの目指すところは、その人流の生き方を尊重した関わりのなかで、その方の生活世界が少しでも広がり、自己実現するよう支援することにある。緩和ケア・サロンは身近な場所で支援プログラムを開発し、地域の実情に即して開拓していくこと、がんサバイバーに一貫して関わる多職種協働システムを築くことが今後の課題と考える。